

# 徳大病院に認知症外来

## 中程度以上除くレカネマブなど使用

徳島大学病院は23日、軽度認知症とその前段階である軽度認知障害(MCI)の人を対象にした専門外来「MCI・認知症外来」を開設したと発表した。認知症の原因の一つであるアルツハイマー病の新薬「レカネマブ」などによる治療を行う。

軽度認知症とMCIに限定され、中程度以上の認知症は対象とならない。レカネマブは脳の浮腫(むくみ)や出血といった副作用が報告されていることから、過去に脳出血の痕跡が多い人も対象外となる。専門外来は今日1日に開設した。医師2人体制で月

・火曜に診療するほか、9月未まで水・木曜(午後2〜4時)に電話による問い合わせを受け付ける。

脳神経内科の和泉唯信科長は、レカネマブによる治療を始める患者が今月中に6人になる見込みだとした上で「対象外となる人も少なくないので、最適な治療法を提示したい」と話した。

(青木忍)

レカネマブは、アルツハイマー病の原因になるタンパク質「アミロイドβ」と結合して排出することで脳内への蓄積を抑え、病気の進行を遅らせる。昨年12月から保険適用となった。18カ月間行われた治験では、レカネマブを投与された集団は、偽薬を投与された集団と比べて認知機能の低下が27%抑制されたという。

レカネマブによる治療はアルツハイマー病による軽